１. 開催概要

展覧会名	カミーユ・ピサロと印象派　永遠の近代	
開催施設名	会期	入場者数
宇都宮美術館	平成 24 年 3 月 24 日 ～ 5 月 27 日	18,512 人
兵庫県立美術館	平成 24 年 6 月 6 日 ～ 8 月 19 日	72,383 人

●開催概要

１. 展覧会内容と評価

この展覧会は、宇都宮美術館開館 15 周年記念、ならびに兵庫県立美術館開館 10 周年記念展として、印象派の巨匠カミーユ・ピサロを中心に、彼とその他の「印象派」の画家たちの関係を浮き彫りにして、印象派の表現を再考しようとすることが目的である。

展覧会の構成は、オーソドックスに、初期から晩年までの作品を、万遍なく展示する方法を採用し、適宜その他の画家による作品を並置することによりピサロとの関係性を示唆した。出品作家数はピサロ以下 16 作家にのぼる。水彩等 72 点、水彩・グアッシュ 3 点、版画 22 点、素描 16 点、合計 113 点（内ピサロは 95 点）を展示した。

本展の内容と構成についての評価は、新聞等に大きく掲載された。

（以下は会期中の主な記事）

・日本経済新聞文化部　窪田直子氏「印象派の影に迫る」(4 月 18 日 日本経済新聞夕刊)
・宇都宮美術館　有木宏二「風景を満たす色彩の調和」(4 月 22 日 下野新聞朝刊)
・朝日新聞編集委員　大西若人氏「平板な風景がはらむ強さ」(5 月 9 日 朝日新聞夕刊)
・神戸大学大学院准教授　宮下規矩朗氏 (7 月 20 日 産経新聞夕刊)
・京都大学准教授　高階絵里加氏 (7 月 23 日 日本経済新聞夕刊)

２. 入場者数

［宇都宮会場］

宇都宮美術館 18,512 人（当初目標 30,000 人：達成率 61.7%）

入場者の内訳は、大人 16,570 人、大学生 319 人、高校生 194 人であった。行動の顕著な傾向として、滞留時間が長いことと鑑賞マナーのひじょうによい点が作品監視員から報告されており、美術愛好家もしくはそれに準ずる層が中心だったと考えられる。

［兵庫会場］

兵庫県立美術館 72,383 人（当初目標 100,000：達成率 72.4%）

他の印象派の画家に比べ、ピサロの知名度は予想以上に低く、会期序盤の集客が伸び悩んだ。会期が進むにつれ、観覧者やマスコミ等から好評を得て来場者は増加したが、序盤の出足が響き、最終入場者は目標の 7 割に留まった。

２. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

１. 展示作品の質・量の充実

一人の画家の回想展には、国内外の美術館からの借用のみならず、個人所蔵の作品も相当数含まれてくる。今回、制度適用により確実に展示作品の質・量の充実につながったと考えられるが、将来的には個人蔵の作品にも政府補償が適応できることが望まれる。

２. 入場無料の低減等

[宇都宮会場]

すでに実施している宇都宮市内に在住・通学している中学生以下の入場料無料措置に加え、国民への実質的な還元策として、会期中（56日間）は、全ての高校生以下の入場料を無料化した。宇都宮会場の高校生以下の入場者数は1,514人（当初2,000人目標）にのぼり、一定の役割を果たすことができた。

また、同規模の展覧会では、一般料金は1,300円であるものの、今回の政府補償の適用により1,000円に低減できたことは、多くの市民に歓迎された。

[兵庫会場]

また、同規模の展覧会では、一般料金は1,400円であるものの、今回の政府補償の適用により1,300円に低減することができた。

３. 教育普及等の充実

[宇都宮会場]

●対談

「対談：ピサロと影の表現」平成 24 年 3 月 25 日

話し手：島州一（現代美術作家）聞き手：有木宏二（宇都宮美術館学芸員）

参加人数：150 人

●記念講演会

「猶太教の隠忍な戦力-ピサロの印象主義」平成 24 年 5 月 20 日

講師：有木宏二（宇都宮美術館学芸員）

参加人数：50人

このほか、宇都宮美術館では、中央ホールに解説コーナーを特設し、担当学芸員による解説 9 回開催し、さらにジュニア鑑賞ガイドの冊子を製作し、展覧会場へと至る館内順路上に自由に持ち帰りができるように配置した。ピサロの人物像を知り、作品への理解を深めるツールとして、こどもたちはもとより、大人の来場者からも大変好評であった。

［兵庫会場］

●記念講演会

「印象派、けれど社会派―ピサロのまなざし」平成24年6月24日

講師：有木宏二（宇都宮美術館学芸員）参加人数：200人

●記念講演会

「印象派のパリとアメリカ」平成24年7月22日

講師：中野京子（作家・ドイツ文学者）参加人数：320人

●学校教員を対象とする解説会

小・中・高等学校等の学習活動での展覧会の活用を促進するため、図工・美術担当の教員を対象に解説会を開催した。

平成24年6月16日　参加人数：47人

●親子解説会

子どもから大人まで参加できる対話形式の解説会を開催した。

平成 24 年 7 月 7 日　参加人数：40 人

●こどものイベント　「空を描こう！光を描こう！」

展示室で学芸員と一緒に作品を鑑賞したあと、風景画（スケッチ）を制作した。小３～中３対象。

平成 24 年 8 月 4 日、8 月 5 日（同一プログラムで２回実施）　参加人数：55 人

●高校生美術セミナー

展示室で作品を鑑賞、鉛筆スケッチした後、館内のアトリエで 4 日間かけて作品制作を行った。高１～高３対象。

全５回（平成 24 年 7 月 26 日、27 日、28 日、29 日、31 日）　参加人数：41 人

このほか、兵庫県立美術館担当学芸員による解説会４回、ミュージアム・ボランティアによる解説会 11 回を開催。また、宇都宮会場で配布した鑑賞ガイドの冊子を当会場の出品内容にあわせ再編集のうえ、展覧会場へと至る館内順路上にディスプレイパネルにより展開。ピサロの人物像を知り、作品への理解を深めるツールとして、こどもたちはもとより、大人の来場者からも大変好評であった。さらに会場では、主要作品を題材に絵の読み解き方を例示したガイドを配布した。

３. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

万全の体制で輸送・展示作業を行い、会期中も警備・監視要員を十分に配置した結果、ヒヤリハット事例も含め、事故は全くなかった。

４. 安全配慮に関する特別の対応

作品の輸送にあたっては、すべての美術品専用車に学芸員または主催者が必ず同乗した。作品管理上、特別に配慮したのは、温湿度の管理だった。問題は、宇都宮美術館と兵庫県立美術館の空調システムの設定の相違により、3℃の差ができてしまうことだった。それゆえ、宇都宮美術館での準備として、会期終了まえの 6 週間をかけて、一週間ごとに 0.5℃ずつ上昇させるという措置を講じた上で、兵庫県立美術館に巡回した。

付言すると宇都宮美術館では、2011 年度の休館中に空調設備を刷新する大掛かりな工事を行っており、本展に関する補償制度の申請にあたっても、それが大きな不安材料となったものの、結果的に最新の設備となったため、きめ細かな温度設定が可能となった。

５. 紹介事例・今後の改善点等

展覧会の企画主旨に沿った鑑賞という点では、確かな手ごたえを感じている。また、必ずしも企画主旨に沿った理解ではなくても、これまで他の印象派の画家たちの中に埋もれていたピサロについて、来館者に「発見」を促す機会になったと考えている。

ただし、若年層に向けての配慮は不十分だったかもしれない。その点を少しでも補うために、カミーユ・ピサロの生涯をイラストと文章で紹介したジュニア・ガイドを作成したが、ジュニア・ガイドとは言え、むしろ大人からの需要が多く、最初は子どもたちだけを対象としていた原則を、会期途中から「ご自由にお持ちください」と変更することになった。その反省を踏まえ、兵庫県立美術館では、展示室への導入となる階段を利用して、ジュニア・ガイドのイラストと文章を大きくディスプレイパネルにして掲げ、若年層に向けての容易な理解につなげる配慮を行った。

６. 展覧会の収支決算書

主催者名　宇都宮美術館、有限会社アルティス

収入

	万円
展覧会収入・その他収入	7,881
共催者負担	5,250
収入総額	13,131

支出

	万円
企画準備等基本経費	5,973
設営・運営等会場関係経費	7,158
支出総額	13,131

主催者名　兵庫県立美術館、産経新聞社、有限会社アルティス

収入

	万円
展覧会収入・その他収入	10,367
共催者負担	5,250
収入総額	15,617

支出

	万円
企画準備等基本経費	8,042
設営・運営等会場関係経費	7,575
支出総額	15,617

注）美術品保険料は補償制度の利用により、当初想定額よりも約２６７万円、軽減された。